

毎日曜日午前中、小坪小学校と飯島公園。
今後とも、スポーツを通して、元気で正
な子供達を育てていきたいと思ひます。

(連絡先)東弘之(二二一六四九二)



女性会員もいて、いつも和やかなKGC=昭和60年3月

KGC

亀が岡在住のゴルフ愛好家の間で、親睦ゴ
ルフクラブを結成し、コンペも開こうではな
いかという声が生り上がってKGC(亀が岡
ゴルフクラブ)が誕生、第一回コンペが葉山
国際CCで開かれたのは昭和五十三(一九七
八)年九月で、参加は四組だった。翌年一月
には全員も二十五人(うち十六人が現在も活
躍中)を数え、その後増えて、いまは約三十
五人。

コンペは二カ月に一回、木曜か水曜。以前
には近県へも出かけたが、近年は主に葉山国
際で開いている。平成元年までに六十七回を
数えるが、年会費はとらず、参加費二千元(懇

親会、賞品代)でだれでも参加できる。三位
まではハンデを切り上げ、ネット九〇以上は
罰金で一打百円(最高千円)。ハンデは年に一
度見直している。女性会員も六人。コンペの
あとの懇親会(亀が岡会館)はにぎやかな笑
いに包まれるのが通例である。

(会長 奥谷喜世志 二一八七七四)

亀が岡子供会

野球チーム「トータス」とは別に、昭和四
十九(一九七四)年六月、小坪小PTA亀が
岡地区代表と父母有志のきも入りで「亀が岡
子供会」が誕生し、七月に逗子市子供連合会
に加盟した。小学校一年から六年まで、会員
数二百四十人を数えた。会費は一カ月三十円、

広がる楽しいふれあい

自治会から補助金が出た。

PTA地区代表、小坪子供連合会、きつき
会と連絡をとりながら次のような行事を行っ
た。遊園地清掃、ラジオ体操、交通安全講習
会、プール水泳大会、おばけ大会、敬老会、新
年会、モチつき大会、亀が岡文化祭にも参加。

子供会はその後も活動を続け、昭和五十
一年には小学校五、六年の男女八十人をメンバ
ーとし、四年生以下も自由に行事に参加でき
るやり方で、ハイキング、キャンプ、お化け
大会、子供だけの不用品交換会、毎日曜(第
二を除く)の公園清掃、冬の火の用心パトロ
ールなどを実施した。

そのほか会報に紹介されたサークルには、

次のようなものがある。

▽詩吟の会(吟友会)

月曜日は午前十時
〜十二時。金曜日は午後七時半〜九時半。
会費は月額千円(連絡先 一柳翠岳一
ノ二二ノ二)

▽逗子フアミリー合奏団

毎月第二・第四
の木曜日 基礎練習(大人)午前十時〜十
二時(会館)、親子の合奏団。バイオリン、
ビオラ、チェロなどの心得のある方歓迎
(梶山節子一ノ一六ノ四一)

▽鷺浦同友会

親睦・奉仕・史跡めぐり・
旅行など。本部は小坪の海岸地区にあり、
例会は各地区で。会費は月額千円(小沢
健一ノ二五ノ二)

(注) いずれも会報42号(八〇年三月刊)
から。

▽手芸同好会

水曜日は午前十時〜十二時、
逗子鎌倉ゼミナール二階。木曜日は午後
一時〜五時、自宅にて月三回、月謝三
千円(森本朝子一ノ一四ノ一三)

▽小坪卓球クラブ

毎週金曜日午後六時〜
八時半、小坪公民館(問い合わせは赤羽
一ノ二四一ノ二〇六八 西勝寺一ノ二五九
九三)

▽波の子学童クラブ

放課後のコミュニテ
ィークラブで、旧小坪公民館で放課後五
時まで指導員のお母さんがお世話してい
る。カギツ子の六人が毎日楽しく過ごし
ている(問い合わせは加藤一ノ二九ノ
一五)

(注) 会報54号(八六年三月刊)から。

亀が岡の周辺

中学や住宅建設お流れに

通称「ハゲ山」

《第三中学建設の話》

小坪や新宿に中学校がないため、ここに第三中学を、という要望が各方面から寄せられ、昭和五十二（一九七七）年三月、「仮称第三中学校建設協議会（会長平井繁雄市議）」が結成された。亀が岡自治会長のほか、亀が岡東、小坪区会、南ヶ丘、光明寺住宅地、披露山TBS各自治会長、小坪ハイッ管理組合長、さらに久木、新宿町内会長、久木小・中校長、各PTA会長、市議と幅広い地域、組織の責任者が名をつらねた。ただ亀が岡自治会としては、翌月開いた役員会で「PTA会員や他団体が選んだところを支援する」として深入りせず、会長個人が建設協議会に委員として参画した。

候補地ははじめ六カ所あったが、次第に絞られて、同年十一月の協議会では①TBS庭園住宅地北側②小坪ハイッ隣接地（通称ハゲ山）③亀が岡南西部に隣接④の二カ所を適地として市長へ報告した。ハゲ山は当初一四、六〇〇平方メートルしかなく、狭すぎる、という疑問があったが、整地すれば二二、七〇〇平方メートル確保できる見通しになったことから有力候補地にピックアップされた。ただ、亀が岡の場合には会長が①決定には亀が岡のPTA会員の総意を尊重したい②ハゲ山に建設する場合には、騒音対策、風による「ほこり」の被害防止対策などを十分に取り入れてほしい、との意見をつけている。

翌五十三年には、「逗子を語る集い」で市長が「立地は五十二年度中に小坪地区に選定する」と発言するところまで進んだ。しかしTBS庭園住宅地北側の谷に建設する案は、「ふるさとの緑」を代表するタブ林、スダジイ林を大量に伐採しなければならず、このためガクくずれを生ずるおそれがあることなどが指摘され、近隣の住宅地から反対が強かった。さらにハゲ山の場合も、騒音などの被害を案ずる声が近所でも高まり、五十三年十月、市は一部地主の事情もあって、小坪に第二中学を

戦後の小坪小学校の児童数の推移を見ると、一九六六年（昭和四一年）が二九二名で最も少ない。その後は増加しつづけ、八一年に八六六と最高に達した。以後は峠を下るように減少し、現在は四九〇名で、これは六〇年とほぼ同数である。

六八年に小坪小を訪れたことがあるが、今は全く様子が違っていた。木造校舎のすぐ近くにまで山がせまり、細長い校庭の真中あたりに、大きな桜の木が一本あった。なんともどかな感じの学校であった。七一年に赴任した時には、校庭が拡張され、桜の木は姿を消していた。六六年からの五年間に、実に二百人以上も増えている。その増加は、そのまま、亀が岡への移住者の増加と見てよいであろう。ピークに達するその後の増加は、他の団地からの児童も多くなっているが、亀が岡は群を抜いており、クラスの数近くが亀が岡の子どもという時もあった。

の話は断念するとの説明を行った。代わって昭和六十二年から沼間に中学が建設され、平成元年四月に開校している。

《県営住宅建設の話》

その後、昭和五十九（一九八四）年五月には、県がハゲ山一帯を取得し、翌年九月、自治会へ「県営住宅を建てたい。測量に協力を」との要請があった。説明会で示された住宅は四階建て、三棟、百余戸。土地の高いところを削り、建物は今の丘より二、三層高い程度に抑え、公園もつくり、周辺地域の人の避難地としての機能も持たせるといふもの。

この案に対して、自治会で検討したものの、なかなかまとまらず、ようやく、建設案を見守り、次の要求が実現するよう折衝する、ことを決めて回覧した。

①風害、電波障害が起きないようにする。

近代化をどう評価するかは別として、小坪小、小坪地区の近代化と亀が岡とは切っても切れない関係にある。亀が岡からの児童の増加により、小坪小は都会的な学校に変わっていった。PTA活動にも新風が吹き込まれた。しかし、浜方、団地地方の間に軋轢がなかったわけではない。「団地族は口うるさくて、いや」という声は、教師の中にもあった。また、校舎増改築が長く続き、教室不足はもちろん、校庭が全く使えない期間も長く、教育活動に支障をきたしたこともあった。

亀が岡と小坪小学校

田野倉 富夫

八三年から八六年の

三年間に、二百人を越える児童減があった。これは、亀が岡からの子どもが卒業した後、新入生は亀が岡からの子どもが少なくなったためである。現在の小坪小は、都会的雰囲気になっても、のどかさを残した落ちついた学校になっている。これは、激動の十数年を経て、旧小坪区と団地が完全に一体化してきた証ではなからうか。（逗子市立小坪小学校教諭）

②亀が岡からハゲ山地内を通じて西側市道（名越く小坪線）への道路を確保する（車が通れるようにする）。

③亀が岡や周辺の住民のため、公園や集会場、災害時に必要な食糧、用具の保管庫などをつくる。

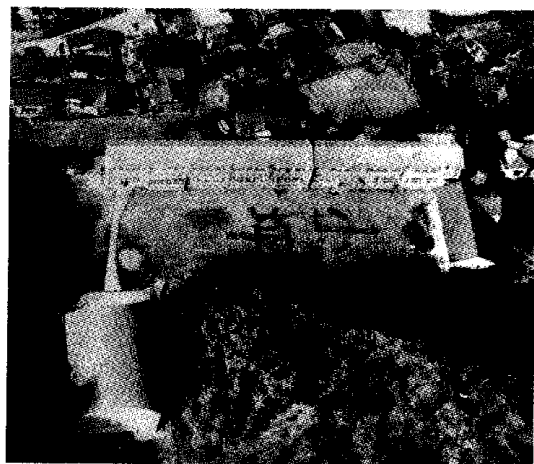
しかし周辺の住民から①一戸建て住宅群の中に集団住宅はなじまない②小坪小の児童が増えるのも歓迎しない③道も広いと車の騒音が問題——などの反対の声が高まり、六十一年二月、「小坪二丁目県有地の開発を考える会」が発足、亀が岡、亀が岡東、小坪区会、小坪ハイツなどの約一五〇軒がこれに参加、二二〇〇余の署名を集めて県へ反対の陳情を行った。県が測量にきたときは、婦人たちが追い返して測量させなかった。

県営住宅建設については、その後、継続審

名越切通し

国の指定史跡「名越切通し」は、亀が岡住宅地の北側に接しているが、その逗子側からの人口付近で昭和六十三（一九八八）年十月、突然、地主が約一、〇〇〇平方メートルにわたり樹木を伐採、さらに翌年六月には「切通し」を切りくずし、山肌を十数メートルにわたって整地、住民たちを驚かせた。

この「切通し」は、鎌倉時代の七つの「切通し」のうち、当時の面影をもっともよく伝える貴重なものとされ、近くにある「大切岸」（おおきりぎし）三浦一族を警戒した要塞と考えられる）と合わせて、帯四二五〇〇平方メートルが昭和四十一年、国の史跡に指定された。市はこのうち八、八〇〇平方メートルを既に取り上げており、今回削られた一帯も数年前から買収交渉を進めていた。しかし価格の開きが大きく、



昭和42年当時の小坪小学校

議のままで、特に動きはないようである。

交渉は難行したまま。地主は、この一帯は「もともと私の承諾もなく勝手に史跡に指定した」といつており、突然の伐採、切りくずしについては「数年間何もなかった市教委へのお返し」という。市教委は、改めてこの一帯を史跡公園にする構想を立て、予算化しているが、住民を主に結成された「名越史跡と自然を守る会」などでは事態を憂慮、平成元年十二月、市長と語ろう「地区市民懇談会」が亀が岡会館で開かれたとき市教委側の積極的な対応を望む意見が出されている。

（注）地主は「この土地は個人の所有地。市は昭和四十一年に地主の承諾なしに勝手に史跡にしたのです」という看板を立てている。

これについて市教委では、四十一年当時は

亀が岡の周辺

曼陀羅堂遊歩道

史跡指定のときに地主の承諾書は不要（承諾書をとるようになったのは昭和五十六年以降）であった。しかし、指定（指定するのは国。市はあつせん）するとき、地主に話をし、了解はとってある、という。

昭和五十九（一九八四）年六月、バス道路から幅広い階段を上り、旧隔離病棟付近を通る新しい遊歩道が新設された。同時に名越史跡めぐりの案内板が数カ所に設置され、それまでアジサイの季節ににぎわった亀が岡地域内の通行量が減少した。

まんだら、は曼陀羅といって宇宙万象の真理とそこに生きる人間の理想境を説き明かした図です。その諸仏が絵図によって一幅の（金剛界、胎藏界）掛軸に表現されたものです。このまんだらをまつて名越のやぐらに吊らわれた諸霊を慰める御堂があったのです。その堂守の僧が日夜まんだらの前で読経したのであらうと言われます。鎌倉は平地が少ないので、都内に墓を作ることを禁じたのです（仁治令）。そのため鎌倉をとりまく山々の山腹にその墓所を作ったのです。当時庶民は特定の墓を作ることは許されなかったから、貴族や武士の墓ばかりでした。百数十穴もある墓の祖先は誰ひとり参る者はありません。後継者が無いのです。全くの無縁墓なのです。七百年もたつと、こんなものなのでしょう。

（石井清司著「ながれ漢」より）

歴史
メモ

まんだら堂跡

を作ることを禁じたのです（仁治令）。そのため鎌倉をとりまく山々の山腹にその墓所を作ったのです。当時庶民は特定の墓を作ることは許されなかったから、貴族や武士の墓ばかりでした。百数十穴もある墓の祖先は誰ひとり参る者はありません。後継者が無いのです。全くの無縁墓なのです。七百年もたつと、こんなものなのでしょう。

亀が岡ものがたり

名所旧跡いろいろ

古い歴史にかこまれて

亀が岡は古い歴史にかこまれた町である。となりの丘には横穴古墳跡、披露山に登れば

縄文の遺跡にふれることが出来る。裏手には名越の切通し、まんだら堂跡と耳を澄ますと鎌倉武士の雄叫びが迫る思いにもかられる。

亀が岡の北の端から横須賀線をのぞんで国道に至る名越坂の降り口あたりは、「新箸の宮跡」※があったといわれる。かつては、鎌倉と三浦の中間にあって、小坪は海からの交流が主で、鎌倉、逗子からも隔絶されており、亀が岡もまた、小坪地区で考えると小坪川の川上にあつて、ぐみ谷と一の沢をはさんだ丘の未開の土地であつた。

「鷺浦風土記」(石井清司著)、「逗子こども風土記」(逗子教育研究会)、「歴史と伝説の道」(逗子教育委員会)などを参考にさせていた

だき、逗子↓小坪↓亀が岡のむかしをふりかえつてみよう。(※印は後述)

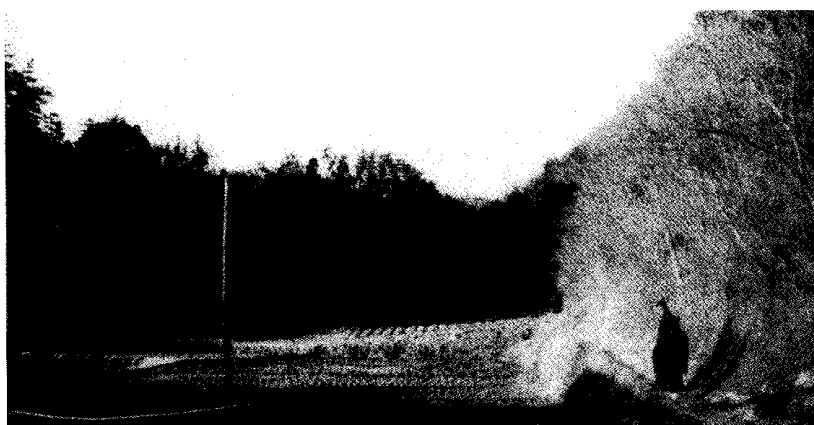
〔遠い昔〕人びとは亀が岡をはじめ、逗子の山やまの猪、鹿などを追って狩猟や海辺の貝類をとって暮らしをたてていた。

縄文時代の遺跡は披露山にもあり、いまの桜山イトーピアの持田(もった)付近の丘には弥生時代の跡もあつて竪穴式の家に住み、土器、石器を使い、次第に大きな集落をつくつていったと思われる。亀が岡のとなりの丘にも横穴古墳跡がみつめられ、山の根、久木の跡では剣、水晶玉などが発見された。

〔中世〕「こつば」の呼び名は、鎌倉時代にはじまり、自然の山ろくの窪地という意味で、小窪↓小壺↓小坪となつたといわれている。鎌倉前期は、漁家十数戸、幕府側近の別邸数戸からなる部落と考えられる。亀が岡にちなんだ話を三つ取りあげてみよう。

(1)「亀の前」小坪には小坂太郎中原小太光家の館があつた。吾妻鏡には頼朝の愛人「亀の前」も光家の館にかくまわれていたと記されている。(2)※「新箸の宮跡」鎌倉幕府が創設される十五年前の治承元年、名越山中で道に迷つた頼朝が一軒の農家に休息、ここで旧知の久野谷六大夫とその娘広尾に逢い、心づくしの粟の飯で款待を受けた時、新しい萱を折つて作つた簪が添えてあつた。後世、村人がこの家跡に「新箸の宮」を祀つたと伝えられる。(3)「名越の切通し」ご存じの鎌倉七切通しの一つで、国指定史跡である。鎌倉と三浦半島を結ぶ要路であることは勿論だが、お猿島(さるしま)の切岸とともに鎌倉を守る要塞でもあつた。

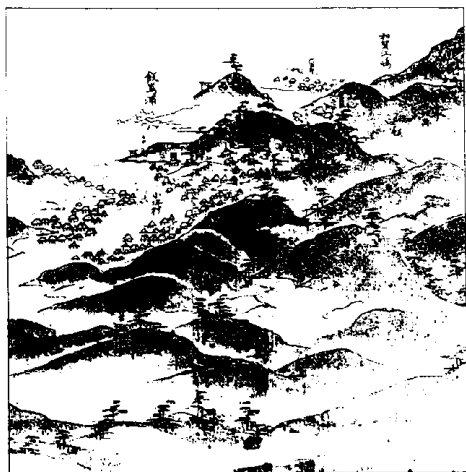
七五〇年以上も前に北条泰時は、飯島に和賀江島の港を築き、都として必要な物資を海から運んだ。隣接地小坪の繁栄が始まつた。小坪の「鳴在家」は港の商業や運送にたずさわわり、漁業も盛んとなり、魚は鎌倉住民の蛋白質源となつた。鎌倉後期には漁業や海運の手伝いなどで人口は急増した。俗に「小坪千軒」ということはこの時代に生まれたといわれている。香蔵寺(小坪寺)をはじめ、報身院(小坪寺に合併)、海前寺、養性院、仏乗院の創立は、それぞれ住民、人口の裏付け(布教、浄財)が必要であることを物語る。



現在の亀が岡入口付近。たんぼがあつて、昔「一ノ沢」といわれた=昭31年

鎌倉幕府が減んだあと、小坪は足利尊氏の領分となり、さらに家臣の饗庭氏直に与えられた。その後、鎌倉円覚寺黄梅院に尊氏死後の供養のため寄付された。当時の古文書には、「くのや」久野谷、「うはかたい」姥子台な

むかしの小坪村の風景 浦賀道見取絵図より



どの地名が記されているが、「くみのやつ」ぐみ谷は亀が岡の隣接地、南が丘でないかと思う。

(近世) 徳川幕府の代になって、逗子の村は群馬の酒井氏はじめ各藩の支配を受けたが、小坪村だけは、文化八年まで直接幕府の支配を受けた。「相州三浦郡小坪御縄打水帳」(文禄三年)の申立書によると、小坪のほとんどの家がわずかながらの田畑をもっており部落としては、北丁(伊勢町)、西丁、中里、南丁の四町があった。名主が村民のためによく面倒をみたといわれる。

室永の富上山大噴火では降砂がひどく、とくに桜山村は御救金を受けた。文化年間に小坪は逗子の他の村と同じく松平氏の領地となり、弘化四年には井伊氏の領地となった。

(明治) 元年、小坪村の戸数は約四〇〇戸、人口二、六五五人。過密の状態で神奈川県に入った。半農半漁の苦しい生活が続いた。このころ、逗子村五〇戸、沼間三〇戸、池子六七戸、久木六〇戸と記録されている。明治二十二年には、それまでの七村を合わせて田越村となった。その時横須賀線も開通、海岸の近くには、医師、政治家、外人の別荘が立

ち並んだ。

小坪小学校は明治七年開設され、鷺浦学舎と呼ばれた香蔵寺（現小坪寺）の本堂を校舎にあてた。その時の生徒数は十数人だったが

歴史メモ 小坪の漁業

江戸前期の小坪は三浦の漁村としては有名なその筆頭に挙げられていました。享和七年に、將軍家へ鯛を献上したこともあり、毎年初鰯献上の儀は今も大塔宮献上のこととして残されていました。また大正の博覧会には小坪のボーチヨウといつて丸木船が出品されたということです。

鎌倉時代には頼朝がよく遊びに来て、漁師の地引網を見て興に入り歌を詠んだという歌があります。

「地曳ひく霞の中のさくら鯛
小坪の浜の春の朝なぎ

(三浦古尋録)
(石井清司著「鷺の浦風土記」より)

「鷲の浦風土記」より

明治三十一年には室町時代の武士、石上弥二郎の屋敷跡である現在地に新築、明治四十一年には生徒数二七二名に達した。

徳富芦花が逗子を背景に創作した「不如帰」「自然と人生」を出版したのは明治三十三年。明治三十七年には、逗子郵便局が開業した。バスの運行の歴史は古く明治四十五年、葉山行きの乗合いバスが神奈川県ではじめてお目見えした。

〔大正〕二年、町制が施行され逗子町となつた。当時の人口は八、五三二人、戸数一、三六五を数えた。大正五年、鎌倉の材木座と小坪を結ぶ天照山トンネルが開通。大正十二年の関東大震災では、逗子町民中、七四人が圧死、全戸数の八八パーセント一、九一四戸が全、半壊した。小坪は天津波のため、地震津波をふくめ三二名の方が亡くなり、家も舟も流出した。横須賀線は大正十三年複線化と

なり、翌年には電化された。大正天皇はとなり町、葉山のご用邸で崩御された。現在のヘルスケアマンションが建設される前は、同地は湘南サナトリウムで結核専門の療養所だった。大正十五年開設、昭和五十九年閉館となった。

亀が岡のむかし

ル山)もあった。昭和二十年の終戦後、小坪砲台跡で遊んでいた一四人の子どもたちが火薬の爆発によって亡くなった。昭和二十二年、池子弾薬庫大爆発、昭和十八年から二十五年まで横須賀市に合併されていた逗子町は昭和二十六年、分離独立。昭和二十七年、東逗子駅が完成。二十九年、市制施行。初代市長に山田俊介氏就任。昭和三十年の国勢調査では逗子の人口は三八、〇九一人、戸数八、七六一戸であった。三十三年、披露山公園開園。昭和三十六年、台風六号で市内大水、床上浸水一、六三六戸。一方で、逗子市の周辺部、亀が岡をはじめとする大型宅地開発が昭和三十八年ごろから始まり、昭和四十五年までの七年間に、一六九・五ヘクタールの山林田畑が宅地にかわり、住宅が建ちはじめた。

※亀が岡造成後から現在までの主な出来事は「資料編」の年表をご参照いただきたい。

川であつた。顔にぶつかるとは、ポケットに入れて持て、手づかみにしては、子どもたちを喜ばせ、ちどり、蚊帳に放して、子どもたちを喜ばせ、また風の向きによつては流されて小学校の下あたりまで飛んでくることがあつた。また秋は、小坪川の水面を飛び海に出る、おびたらしいオナジヨの乱舞があつて子どもたちから大人まで、トンボ取りに夢中になつたものである。

○●ツルギノチカラ

この出陣で遊んだ子どものころのことである。谷戸の田にドジョウつきに行く話がまつて友だちとドジョウ針を買いに行った。当時は、駄菓子屋で鳥もちなどといっしょに売っていたのである。これを竹棒の先につけてでき上がり、次は田の面を照らすたいまつを作る。たいまつ作りは薪の中から松薪のヒデという、松やニの部分の細かく割つたものを棒の先につけて、でき上がりである。

田圃には暗やみに光って見えるものがあるから氣をつけよ、「へびの目も光るから十分氣をつけて行くんだぞ」と親に注意されて出かけたものである。照らし出されたドジョウは、田植えしたばかりの苗のそばに何匹もじっと

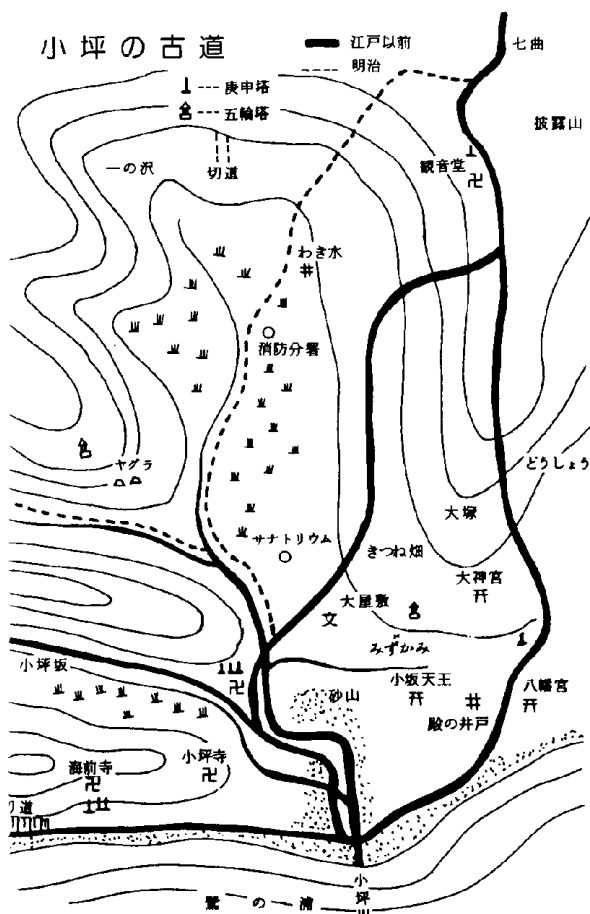
◎新しい道

とかく閉塞的になっていた小坪に新風を吹きこんだのは昭和五年、わたしが逗子小学校に通学した年からである。この年から小坪小の六年生は小坪から久木にぬける新しい切通しを通過して、逗子小まで通学することになった。二、三の遠い道であった。

昭和十年にはバスが通るようになり、田圃のドジョウも驚いたことであろう。それからしばらく経つても谷戸には家はまだできなかつた。静かな田圃道はホタル、オンジヨ（小坪の方言でギンヤシマのこと）の飛ぶ菜園であつた。現在のガソリンスタンドのうしろあたりの田圃には秋になると、カモが舞い降りてあそぶ様子もながめられた。

◎ホタルとぶ道

わたしは小坪小学校に勤務したのは、昭和二十五年。この田圃道はまだ静かにねむつていた。ある日、逗子からの帰り道、この道でホタルの乱舞する光景を見た。一番多く飛ん



亀が岡ものがたり

横たわっているのを、初めて見た。

◎ オンジヨとり

秋の夕方、何千、何万という数のオンジヨが川の水面をつたわってやってくるのを橋の上で待ちぶせて「たま(綱)で取るのだが、このトンボは、決して止まらないので飛んでいるのを取るわけだから技術を要した。このトンボたちは、夕焼けの海に向かって飛び去って行く。よく子どもたちに、オンジヨはど

逗子と小坪をつなぐ切道ができたのは昭和二年のこと。この切道の土で大谷戸の田圃を埋め、今の道路(亀ヶ岡下のバス道路)を作ったのです。この切道の開削の前に、隧道で逗子、小坪間をつなぐ計画があり、昭和二年に着工したのです。今の入会橋(陸橋)から約五十メートル南よりの場所でした。

ところが、出水がはげしく、作業が困難となり、中止してしまいました。翌年、場所を変え、トンネル計画を変えて、切道にしたのです。人力で削り、トロツコで運びました。この土は小坪側は田圃へ、逗子側は下の荒地(今の幼稚園から南へ新宿に(この付近は広い荒

大谷戸の道(亀ヶ岡入口)

地だった)土を出したのです。実際に交通できるようになったのは昭和五年のことです。

わたしたち子どもにとっては、この新しい道はたいへん広い大きな道だと思いました。

勿論当時は砂利を敷いた道です。両わきは田で、大雨が降ると、どういうわけか道路の数ヶ所から水が湧き出るので、そのきれいな湧き水で、手を洗ったり、足を洗ったりしました。中学の一年(昭和六年)の時、私の作った句が選に入りました。

足洗う水には惜しき清水かな

このような情景の新しい大谷戸の道は、逗子と小坪の交流を深めるために大きな役割をはたしました。

(ながれ藻 石井清司著より)

こに行くのかと聞かれて困ったことも思い出す。極楽トンボと言うから、きつと西の夕焼けの方の極楽に行くんだらう、と言ったことも思い出す。

◎ 昭和三十九年

小坪の天王まつりの三十二年に一回の大祭といわれる年で、また、オリンピックの年でもあった。また、この年に小坪の海岸に運び

名刺を交換するたびに「逗子ですか。湘南はいいですね」とあいさつされる。湘南といえば、青い空と温暖な気候を連想される方が多い。

私もその一人で、きれいな空気と緑を求めて東京から引越して来た。そのころ、空を見上げると夏でも目がくらむような青空が広がっていた。あまりの美しさに圧倒された印象は、いまだに残っている。が、いまは大気汚染が湘南にも広が

り、富士山も見えにくくなった。車社会が便利さを提供する代わりに、自然の大気は汚れていくのである。きれいな青空が広がるのは、寒い冬に多い。季節風が、空を掃除してくれるからである。

「嵐が丘」が亀が岡の別名だったほど、風の強いところである。とくに、西よりの風のときに強風が吹く。冬、亀が岡で西風が強いのは、寒気団が西日本に吹き出したとき

で、当地も寒い。だが、

亀が岡の気象

温暖な逗子の気象 (昭和59年中)

区別 月別	天気日数				気温(℃)			平均湿度 (%)	降雨量 (mm)
	晴	曇	雨	雪	平均	最高	最低		
1	22	7	0	2	2.6	14.0	-5.0	60.6	15.3
2	12	16	1	0	2.3	11.0	-7.0	58.6	38.6
3	20	7	3	1	5.4	17.0	-3.0	65.9	93.3
4	11	16	3	0	11.1	21.0	1.0	76.6	70.5
5	12	18	1	0	16.3	24.0	8.0	86.3	47.4
6	6	17	7	0	21.0	27.0	16.0	94.1	287.1
7	19	11	1	0	25.6	32.0	19.0	92.3	81.4
8	24	7	0	0	27.4	34.0	22.0	89.9	43.0
9	17	11	2	0	22.5	33.0	15.0	87.4	60.5
10	11	17	3	0	16.6	27.0	4.0	79.1	72.1
11	15	13	2	0	11.4	22.0	3.0	76.1	43.5
12	19	11	1	0	7.5	18.0	-2.0	66.1	91.6
計	188	151	24	3	14.2	34.0	-7.0	77.8	948.8

朝倉 正(七班)

寒気団が北陸以北に吹き出すときは、東京で空が風が吹き荒れていても、亀が岡は「どこ吹く風」とばかりに温暖な気候を満喫している。こんな時、亀が岡は住みよいところだと思

(日本気象協会主任技師)

こまれたテトラポットは、小坪を変貌させる先づけになっていたのである。大祭が終わって翌年の昭和四十年から宅造と埋め立ての大工事が始まって小坪の地形は大きく変わっていった。

いままでの話は、亀が岡にまだ田圃と丘陵が続いて、めつたに人の入りこまない名越の古道に続く、亀が岡が森林の時代の話である。

資料編

年表

昭和38年(1963)

＜事方箇＞

- 亀が岡造成はじまる。(労信販・逗子団地といった)

＜逗子＞

- 泉鏡花の句碑、岩殿寺に建つ。

＜社会・世相＞

- 古展ちゃん誘拐事件、狭山事件老人福祉法公布、第一回全国戦没者追悼式。流行語「いいからいいから、カギっ子、カワイ子ちゃん、オフィス・レディ、ハッスル

昭和39年(1964)

＜事方箇＞

- 亀が岡入居はじまる。
- 旧水道タンク完成。
- ダストボックス(鉄のゴミ箱)設置。

＜逗子＞

- 湘南有料道路開設
- 市民体育館完成
- し尿処理場増設

＜社会・世相＞

- 新潟地震、東海道新幹線開通、オリンピック東京大会、佐藤内閣誕生、公明党結成。流行語「ウルトラC、いいと思うよ、金の卵、みゆき族

昭和40年(1965)

＜事方箇＞

- 自治協議会発足
- 納税組合結成
- 台風で5軒の屋根飛ぶ

逗子市に対する

要請書、陳情書

緑ヶ丘入口(旧小坪入口)バス停に通じる道路復元・改善について自治会から市長へ。

要請書

私達が居住しております逗子市小坪一丁目通称亀ヶ岡団地北側(一丁目二〇番一三三号附近)より、小坪入口バス停留所に通ずる公道が、一昨年五月頃、宅地造成により、切斷され通行不能となつて現在に至つております。

この公道は、私達団地居住者にとって、非常災害時には、最も重要な避難道であり、また、通勤道路としても日常生活の上からも多く利用され、必要且つ便利なものであります。

併し、前述の如く住民を無視した違法工事により、突如切斷されたまま放置されていることは、誠に遺憾に堪えないところで、従つて、貴職におかれても私達住民の意のあるところを充分に斟酌されて、現場調査の上、造成施行の土地所有者に対し、速かに復元し通行可能とするよう適切な措置と厳重な行政指導を強く要請するものであります。

昭和四十三年五月 日
逗子市亀ヶ岡自治協議会

会長 鈴木 清

逗子市長

山田 俊介殿

陳情書

亀が岡会館わきからバス停緑ヶ丘入口に通ずる坂道は、日常ひんばんに利用されるだけでなく、災害の際に亀が岡住宅地から北側へ避難する唯一の重要なコースです。

このコースは現在土どめのセメント吹きつけ部分、手すり、東京ガスの階段等に痛みが出ており、事故が憂慮されます。さらに大地震や豪雨の場合に崩壊の危険も予想され、避難路として役に立たないという重大な局面を迎える恐れなしとします。土地所有にからむ複雑な事情はありますが、住民の安全確保のため、このコースの変更を含む根本的な改善を是非ともお願い致したく署名を添えて陳情致します。

昭和五十年二月八日

亀が岡自治協議会

会長 霜山富士夫

逗子市長

三島虎好殿

下水道早期完成に

関する陳情書

〔要旨〕

小坪地区の公共下水道工事を一日も早く完成し、同地域の住民が健康で文化的な生活ができるよう、幹線工事と枝線工事を同時に進め早期に完成して下さるよう陳情いたします。

〔理由〕

小坪地区の公共下水道工事促進に關し、去る九月十一日付文書により、同地区内の区長、自治会長連名による陳情書を提出いたしましたが、昭和五十六年度小坪幹線完成を目標にして努力している旨承りました。しかし、それが技線工事は含まれていないやに伝えられておりますことは誠に残念なことです。

中すまでもなく、小坪地区は宅地造成による人口急増地域であり、それらの宅地から排出される汚水は小坪川を通じて小坪湾に注いでいます。そのために小坪川や小坪湾にはヘドロが沈澱し、悪臭を放ち、海水を著しく汚染しているばかりでなく、ハエや蚊などの発生源となつており、万一伝染病などの発生した場合を考えると慄然たりわけ亀が岡団地では不完全浄

化の汚水が側溝に排出されており、しかも排水が悪いためにヘドロ状の汚物が側溝にあふれるなど著しく非衛生的な環境下にあり、公共下水道の速かな完成が望まれています。

したがって幹線工事と同時に枝線工事も進行して頂きたく、住民の署名を添えて陳情する次第です。(一九七九・三・二〇)「かめがおか」第39号より)

亀が岡会館の市への移管に関する文書

昭和四十九年十二月二十七日
逗子市長 三島虎好殿

亀が岡自治協議会

会長 霜山富士夫

寄付採納願

つぎの表示建物を逗子市に寄付したいので、受納くださるよう、お願いいたします。

一、建物の表示

(一)所 在 逗子市小坪一丁目二七五番地の三八

(二)種 別 集会所

(三)構 造 木造並鉛メッキ鋼板葺平家建

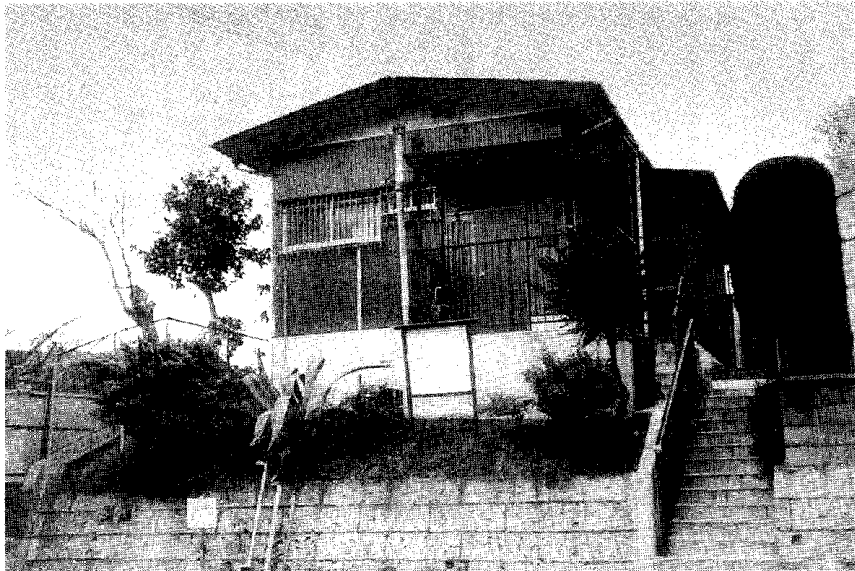
(四)床 面 積 四一・四〇平方メートル

(五)建築年月日 昭和四十八年一月二十日

(六)建築価格 一、二〇〇、〇〇〇円

二、添付書類

(一)案内図



会員の集いの場——亀が岡会館

(二)建築確認通知書(副)

(三)承諾書、印鑑証明書、住民票

(以上三件 中川達男分)

五十逗収第三十五号の二

昭和五十年二月二十日

亀が岡自治協議会

会長 霜山富士夫殿

逗子市長 三島虎好

寄附受領について

謹啓、時下ますますご清栄の御事とお慶び申し上げます。日頃は

本市政に格別のご配慮を賜わり厚くお礼申し上げます。

さて、昭和四十九年十二月二十七日づけをもって寄附申出のありました下記物件については申請どおり受領いたします。

記

一、建物所在地 逗子市小坪一丁目二七五番の三八

二、構 造 木造並鉛メッキ鋼板葺平家建

三、床 面 積 四一・四〇平方メートル

〈逗子〉

●住居表示制度開始

●ゴミダストボックス実施

●国勢調査人口四三二二二

〈社会・世相〉

中教審「期待される人間像」、平運結成、朝永振一郎ノーベル物理学賞、松代群発地震、日韓基本条約調印。流行語「しごき、エスカレート、TPO

昭和41年(1966)

〈亀が岡〉

●公園完成

●道路舗装、駐在所設置で署名、陳情

●県水道にするよう労信販と交渉

●郵便ポスト新設

〈逗子〉

●公共下水道工事開始

●小坪小体育館完成

●市立図書館、浪子不動公園完成

●名越切通し国史跡に指定

〈社会・世相〉

全日空機、東京湾に墜落、全員死亡、敬老の日・体育の日新設、ビートルズ来日、流行語「アングラ、ケロヨン、蒸発、エリを正す、黒い森、原宿族

昭和42年(1967)

〈亀が岡〉

●道路の一部、市に移管へ

●バス停「亀が丘」新設

●牛乳値上げ阻止

●水道、県へ移管

●裏階段の道できる

〈逗子〉

亀が岡自治会 自主防災組織規約

第 一 条 (名 称)

亀が岡自治会の自主防災組織は『亀が岡防災会』と称し本部を平常時は亀が岡自治会館におき、非常時に於いては状況により移動する。

第 二 条 (目 的)

防災会は地域住民の自主的な防災意識の高揚を図るとともに、非常時に於いては、初期消火、避難誘導、救護、治安の維持等にあたり、地域住民の安全確保を図ることを目的とする。

第 三 条 (構成及び組織)

1. 亀が岡防災会は亀が岡自治会〔区域内にある全世帯(事務所、事業所を含む)〕の住民で構成する。

2. 亀が岡防災会は第二条の目的を遂行するため自治会長が防災会長となり地域を四ブロックに分け夫々のブロック長は自治会役員が担当する。

3. 一ブロックは四、七班で構成し各班長は自治会組織の班長で担当する。

4. 防災会長を補佐するため防災対策室をおく。

5. 非常時に救護本部をおく。

第 四 条 (防災会長及び各ブロック長の任務)

1. 防災会長は自治会長が兼務し、行政機関との連絡指導に対処するとともに防災全般の任務

をつかさどるものとする。

2. ブロック長は防災会長の指揮下にあつて、受持班長及び班員の協力をえて、平常時は地域内の防災点検を行い、危険箇所をチェックし、その改善をするほか、初期消火、救護、避難誘導、の訓練を行う。

非常時に於いては初期消火に全力をつくすとともに、負傷者に対する応急手当、救護本部への搬送等にあたり、その場に應じた判断をもつて避難誘導を行うものとする。

第五条 (防災対策室の構成及び任務)

防災対策室はブロック長と防災会長の委嘱する室員からなり、室長は室員の推薦又は互選により選出する。

防災対策室は会長の命により、防災活動の企画、立案を行い、

平常時は回覧板、掲示板等による広報及び、映画会、説明会を催す等、防災意識の高揚をはかると共に防災に必要な資器材を調達し、その保持、管理を行うほか、家庭防災に必要な物資の斡旋をする。

非常時に於いては、的確な情報を把握し、自治会全域に情報を伝達し、流言、デマを防止し、人心の不安感を除くよう努力する。

特に火災に対して十分に注意するよう呼びかけると共に給水、給食活動に万全をはかる。

尚、防災対策室の中に、適格

者からなる無線班をおく。

第六条 (救護本部の構成及び任務)

非常時における救護本部は湘南クリニックにおき、救護本部長は高宮医師とする。

救護本部は医師のほか、看護婦並びに看護に経験のある者で構成する。

救護本部は負傷者の応急処置を行う。

第七条 (役員の任期)

1. 防災会の会長及びブロック長、ブロック長補佐の任期は一ケ年とする。但し、任期終了後の一年間は次期防災会長及びブロック長を補佐するものとする。

2. 各ブロックの班長の任期は六ケ月とする。但し、任期終了後の六ケ月間は次期班長を補佐するものとする。

3. 防災対策室員のうちで会長から委嘱された室員の任期は二ケ年とし再任を妨げない。

第八条 (会員の協力)

防災会の目的を達成するため、自治会員は役員の指揮、指導に従い、平常時においては、各ブロックで実施する防災活動に積極的に参加し、非常時においては防災会役員の活動にできる限り協力するものとする。

第九条 (費用)

防災会の運営に必要な費用は原則として自治会及び市の補助金をもって賄う。

第十条 (規約の改正および細則の

逗子湾下水処理場理立て、逗子マリナー小坪湾理立て工事はじまる。

〈社会・世相〉

初の建国記念日、東京都知事に美濃部亮吉、イタイイタイ病の原因は三井金属の排水が原因と発表
吉田茂元首相死去、戦後初の国葬
流行語「アングラ、ヒッピー族、対話、カッコイイ、ガメラ、公害

昭和43年(1968)

〈電気〉

● 建築協定に基き、アパート、工場おこしを総会にて承認
● 裏公道処理特別委員会設ける
● 青空集会所りやめ

〈逗子〉

● 池子、ゴミ焼却場、市役所分庁舎完成

● 小坪消防分署完成

〈社会・世相〉

● 米原子力空母エンタープライズ
佐世保寄港、金婚老事件、大学紛争ピーク、霞ヶ関ビル完成、川端康成ノーベル文学賞、府中3億円強奪事件、流行語「いざなぎ島風、サイケデリック、失神、大きいことはいいいことだ、昭和元禄、ハレンチ

昭和44年(1969)

〈電気〉

● 七二五人の署名をそえ道路舗装を市へ陳情

● 裏階段整備の特別委開く

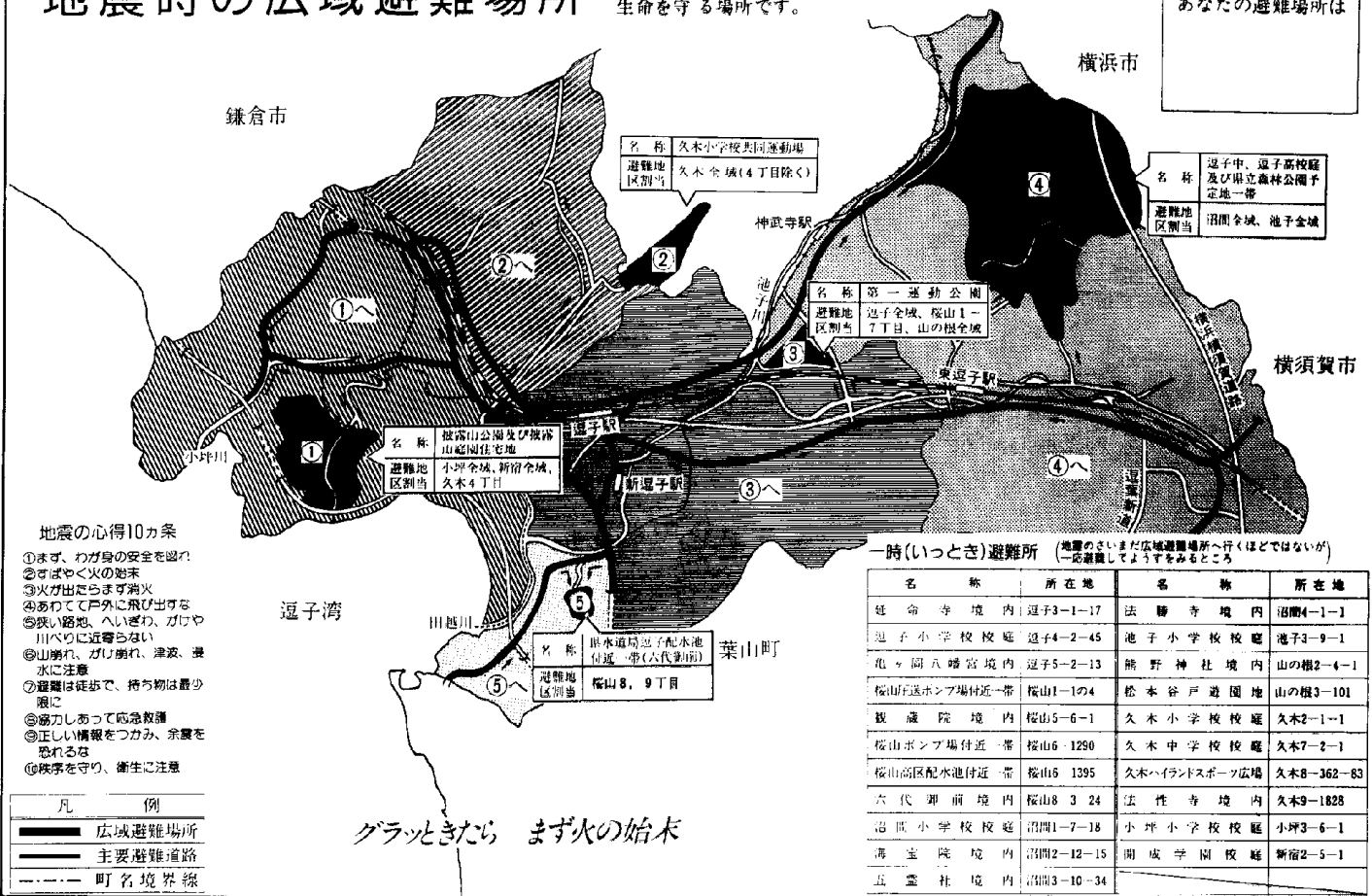
〈逗子〉

● 逗子駅改築

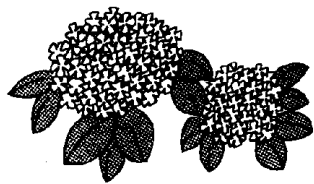
地震時の広域避難場所

地震のときに大災害から私たちの生命を守る場所です。

あなたの避難場所は



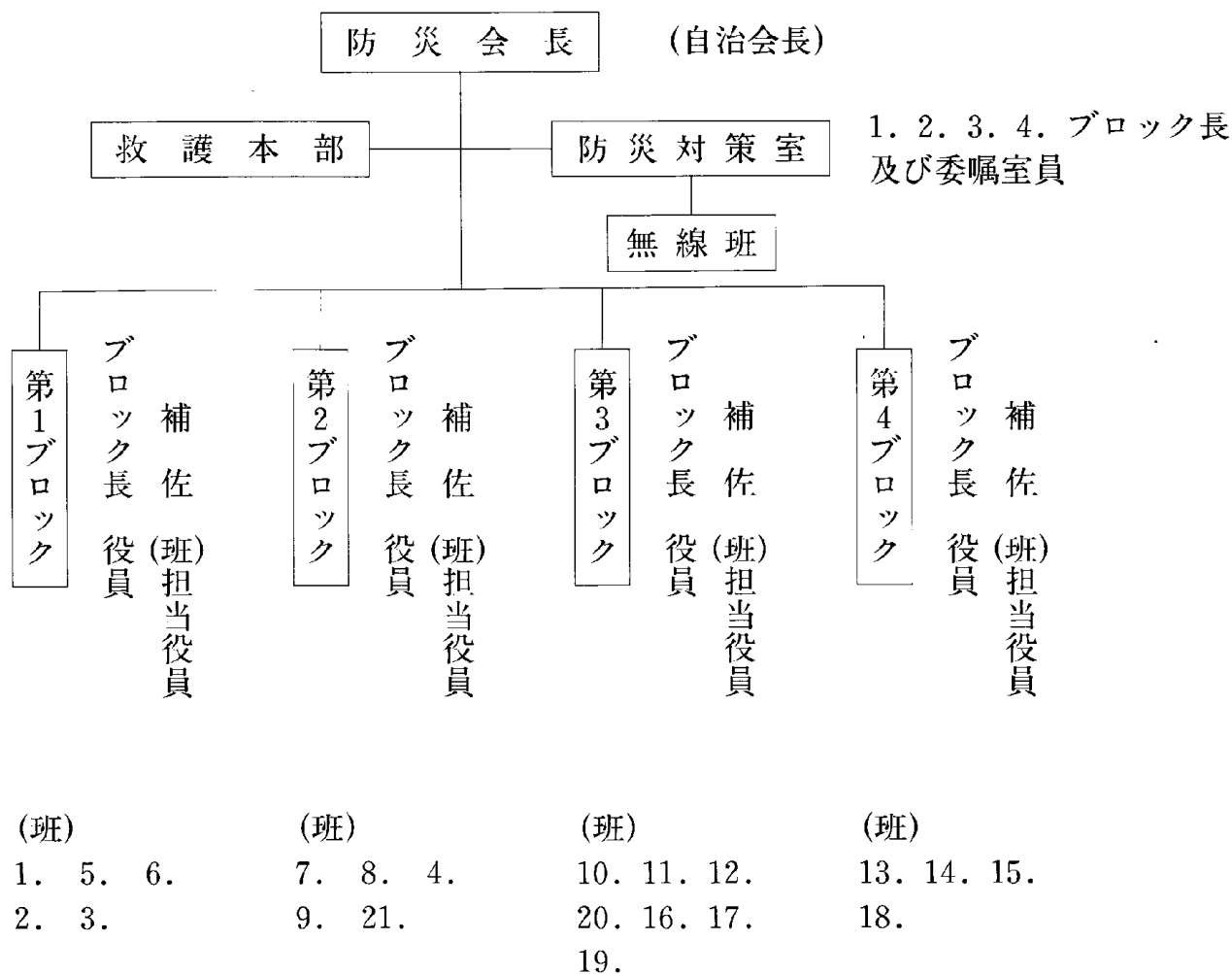
グラツきたら まず火の始末



制定)
会長は本規約の改正、もしくは細則制定の必要が生じた場合、各ブロック長、班長、および防災対策室員の過半数の賛成を得て、これを行うことができる。
ただし改正もしくは制定の内容については遅滞なく全住民に周知させなければならぬ。
第十一条(施行期日)
この規約は平成元年10月1日から適用する。

●最初の分譲マンション逗子ハイム完成
●社会・世相
安田講堂封鎖解除、東名高速開通、人類初の月面到着、原子力船「むつ」進水式、流行語「あつと驚くタメゴロー、内ゲバ、やったぜベイビー」、はっぱふみふみ、断絶
昭和45年(1970)
●電ガ岡
●道路舗装一部終わる
●99階段一部崩れる
●逗子
●逗葉新道開通
●持田遺跡発掘調査
●福祉会館・池田通り拡幅完成
●第11回国勢調査・人口四八、二四二
●社会・世相
日本初の人工衛星、大阪で万国博、よど号事件、歩行者天国スタート、日本初のウーマンリブ大会、三島由紀夫割腹自殺、流行語「ウハウハ、スキシッ、エコノミックス・アニマル、ビューティフル、衝激の告白」
昭和46年(1971)
●電ガ岡
●住居表示地図と五十音順名簿配布
●逗子
●市人口五万人突破
●宅造に対し周辺住民の同意制度を作る、昭和五十七年まで
●社会・世相
環境庁発足、雲石上空で自衛隊

亀が岡『防災会』組織表



- 昭和47年(1972)

● 機と全日空機衝突、墜落、二人死亡、沖縄返還協定可決、東京・新宿でクリスマスツリー爆弾事件。流行語ーニアミス、頭越し、落ちこぼれ、ワイーリング、東京ゴミ戦争

● 尿浄化槽重点指導地区となる

● 浄水管理センター開所

● 池子接収地六ha(第一公園)返還

● 小坪保育園開園

● 披露山遺跡発掘調査

〈社会・世相〉

元日本兵横井庄一グアム島で見、連合赤軍浅間山荘事件、高松塚壁画発見、田中角栄内閣誕生、川端康成ガス自殺。流行語ー恍惚の人、知る権利、甘えの構造、お客様は神様です、子連れ、複製時代

昭和48年(1973)

〈亀が岡〉

● 会館の開館祝賀式行わる

〈逗子〉

● 県立逗子青少年会館建設

● 小坪小鉄筋化

● 池子弾薬庫へ弾薬搬入昭和五二年まで

● 市内の映画館なくなる

〈社会・世相〉

浅間山大爆発、円、変動相場制に移行、金大中事件、江崎玲於奈、ノーベル物理学賞、オイルショック

昭和47年(1972)

● 機と全日空機衝突、墜落、二人死亡、沖縄返還協定可決、東京・新宿でクリスマスツリー爆弾事件。流行語ーニアミス、頭越し、落ちこぼれ、ワイーリング、東京ゴミ戦争

● 尿浄化槽重点指導地区となる

● 浄水管理センター開所

● 池子接収地六ha(第一公園)返還

● 小坪保育園開園

● 披露山遺跡発掘調査

〈社会・世相〉

元日本兵横井庄一グアム島で見、連合赤軍浅間山荘事件、高松塚壁画発見、田中角栄内閣誕生、川端康成ガス自殺。流行語ー恍惚の人、知る権利、甘えの構造、お客様は神様です、子連れ、複製時代

昭和48年(1973)

〈亀が岡〉

● 会館の開館祝賀式行わる

〈逗子〉

● 県立逗子青少年会館建設

● 小坪小鉄筋化

● 池子弾薬庫へ弾薬搬入昭和五二年まで

● 市内の映画館なくなる

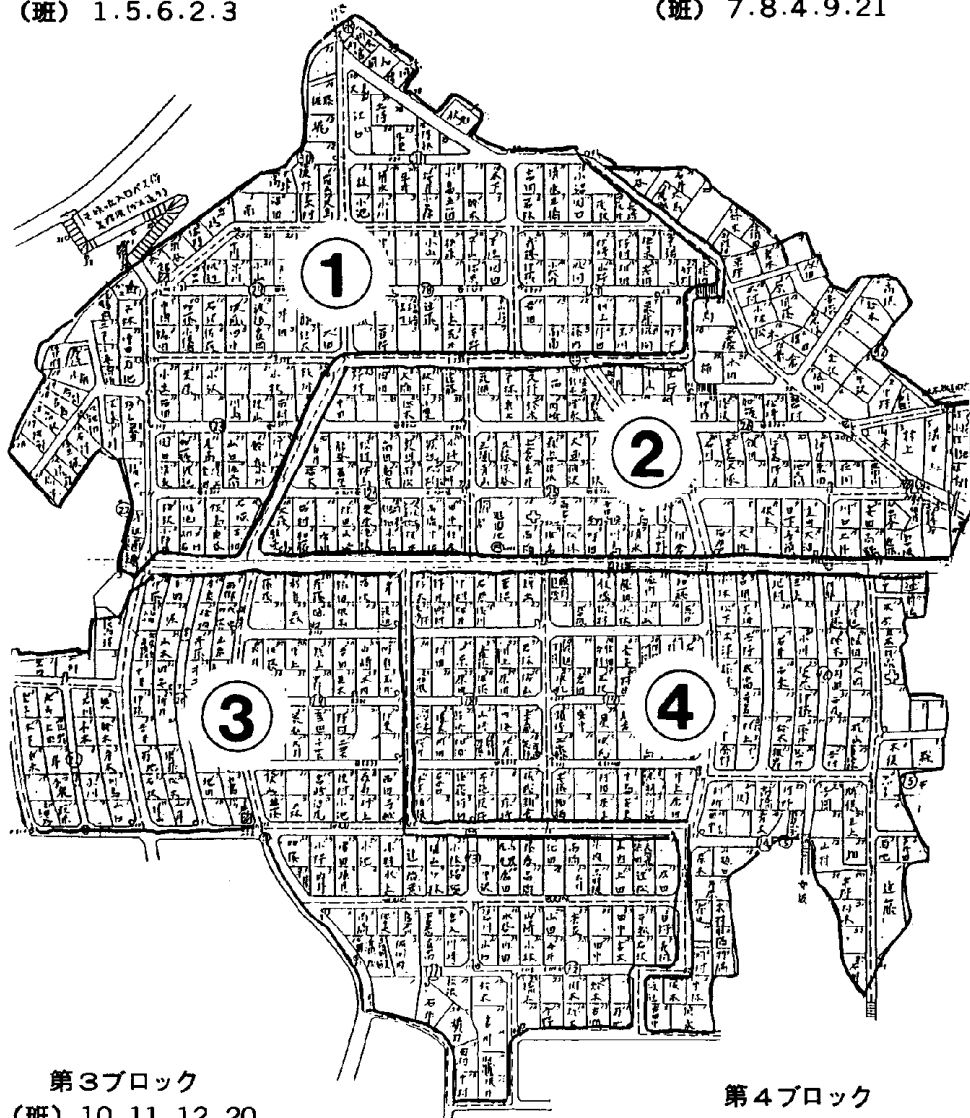
〈社会・世相〉

浅間山大爆発、円、変動相場制に移行、金大中事件、江崎玲於奈、ノーベル物理学賞、オイルショック

防 災 区 分

第1ブロック
(班) 1.5.6.2.3

第2ブロック
(班) 7.8.4.9.21



第3ブロック
(班) 10.11.12.20
16.17.19

第4ブロック
(班) 13.14.15.18

ク、閣議一〇〇%自由化決定。流行語「終末論、植物人間、せまい日本、そんなに急いでどこへいく。

昭和49年(1974)

〈亀ヶ岡〉

- 京急バス大幅減便、一部復活
- 亀ヶ岡文化祭開く
- 小坪小創立百年祭に参加
- 子供会結成
- 緑ヶ丘入口バス停移動で自治会動く

〈逗子〉

- 市制二十周年、都市宣言、市歌市木つばき制定
- 第一運動公園一部開園
- 久木中学校鉄筋化

〈社会・世相〉

小野田少尉帰還、堀江謙一、単独無寄港世界一周、三菱重工ビル爆破事件、佐藤栄作前首相ノーベル平和賞、田中首相退陣。流行語「金脈、青天のヘキレキ、大子言、オカルト、負けそう

昭和50年(1975)

〈亀ヶ岡〉

- 裏階段改修で市へ陳情
- 自治協議会は自治会と改称
- 街灯増設(この年に限らず)
- 会館、市へ移管

〈逗子〉

- 久木大池公園開園
- 第12回国勢調査 人口五六、一九二

〈社会・世相〉

山陽新幹線・岡山―博多間開通
沖縄海洋博開催、皇太子夫妻沖縄

訪問、天皇訪米、公労協「スト権スト」。流行語「ちかれたび」、超法規、複合汚染、めんそーれ、あんだ、あの娘の何なのさ

昭和51年(1976)

《電ガ岡》

- 緊急避難用品を自治会にて販売
- 環境美化で県から表彰
- 防災教室を実施

《逗子》

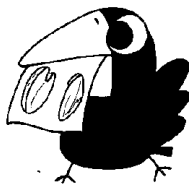
- クリーン逗子宣言

- 駅裏駐輪場完成

《社会・世相》

ロッキード事件、新自由クラブ結成、ソ連ミグ25戦闘機、函館空港に亡命着陸、酒田市大火、核拡散防止条約。流行語「記憶にございません」、ピーナッツ、灰色高官受け皿、どっちが得かよく考えてみよう

昭和52年(1977)



《電ガ岡》

- 裏階段の交通量調査
- 会員の意識調査を実施

《逗子》

- 第一回市民祭
- 鏡摺不整合を県天然記念物に指定

《社会・世相》

領海12カイリ、漁業水域200カイリ実施、王貞治ホームラン世界記

録、日本赤軍、日航機ハイジャック、社民連結成。流行語「翔んでる、アンノン族、イワテケン、知的生活、人の生命は地球より重い

昭和53年(1978)



《電ガ岡》

- 逗子行緑ヶ丘入口バス停移設で市、京急バスへ。
- 公共下水道工事促進を小坪地区連名で市へ陳情

《逗子》

- 県立逗葉高、追浜高内に開校
- 駅前にマクドナルド開店

《社会・世相》

伊豆大島近海でM7地震、植村直己、単独北極点到達、日中平和友好条約調印、宮城県沖地震、サンシャイン60オープン、サラ金地獄。流行語「あんたが主役、ないんちゃって、不確実性の時代、地方の時代、しぐれ族、逆転の時代

昭和54年(1979)



《電ガ岡》

- 緑ヶ丘入口バス停移設は「現状通り」で落着
- 女坂に手すり設置

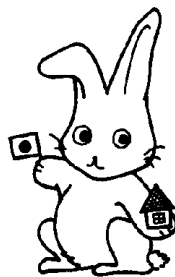
《逗子》

- 伊香保町と姉妹都市となる
- 逗葉高、桜山イートーピア内に新築

《社会・世相》

初の共通一次試験、グラマン事件、東京サミット、東名高速日本坂トンネル自動車火災事故、第二次石油危機、流行語「ウサギ小屋省エネ、エガワる、にやんにやん、夕暮小説、鼻血プー

昭和55年(1980)



《電ガ岡》

- 公共下水道促進を市に要請(毎年のように行っている)
- 側溝補修を市へ要請(毎年のこと)

《逗子》

- 裏階段改修終わる
- まんだら堂、原水爆禁止祈禱行者日哲老死去
- 池子弾薬庫に米軍住宅千戸計画
- 逗子開成高数名、北アルプスで遭難
- 第13回国勢調査人口、五八、四八一

《社会・世相》

大平首相急死、ダブル選挙・自民党圧勝、鈴木内閣成立、静岡市でガス爆発、死者14人、新宿西口バス放火事件。流行語「それなり

に、クレイマー・クレイマー、呆け老人、ナウイ、カラスの勝手でしよ、ヘッドホン族

昭和56年(1981)

《電ガ岡》

- 市へ会館増設を要請
- 公共下水道の検管工事はじまる

《逗子》

- 米軍住宅反対運動、カーター大統領に署名提出
- 小坪障害者作業所開所
- 名越切通し周辺三・五haを国史跡に追加指定
- 神武寺城郭遺跡調査

《社会・世相》

初の「北方領土」の実施、中国残留日本人孤児初来日、北炭夕張新鉱ガス突出事件、福井謙一ノーベル化学賞、丸山ワクチン治験薬指定。流行語「クリスタル族、ハチの一刺し、ニンニン、フルムーン、青い鳥症候群、ウツソオー

昭和57年(1982)

《電ガ岡》

- 会員名簿発行

《逗子》

- 横浜横須賀道路逗子インターチエッジ開通

《社会・世相》

ホテル・ニュージャパニア火災、東北上越新幹線開通、教科書検定問題、三越事件、日航機事故・機長心神喪失、中曽根内閣誕生。流行語「ほとんどビョーキ、気づばり、行革三昧、症候群、森林浴、逆噴射、ネクラ・ネアカ

昭和58年(1983)

《電が岡》

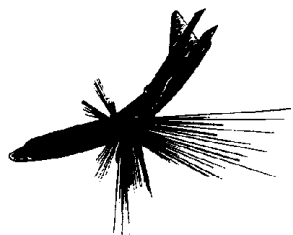
●公園桜の枝切り

《逗子》

●米軍住宅反対運動 米国防省へ署名提出

《社会・世相》

日本海中部・津波被害 大韓航空機墜落事件、戸塚ヨットスクールの事件、免田事件無罪判決、金融機関第二土曜日休日。流行語「い」とも、おしん、ニヤンニヤン、勝手連、積木くずし、エイズ、エントロピー



昭和59年(1984)

《電が岡》

●下水道側溝で市へ促進を陳情 (毎年のように行う)

《逗子》

●市政三十周年小坪公民館 教育研究所 郷土資料館、青少年野外センター、市役所新庁舎完成 市・化はととぎす

《社会・世相》

グリコ・森永事件、三池有明鉱火災、疑惑の銃弾報道開始、ロス五輪、三種類の新札発行。流行語「イッキ・イッキ、くれない族、マルキン・マルビ、財テク

昭和60年(1985)

《電が岡》

●公園に新ゴミかごを設置、外壁の改修へ。

《逗子》

●十五年ぶりの宅造、東逗子団地 養神亭廃業

●第十四回国勢調査 人口五七、六五、八

《社会・世相》

科学万博つくば85、電電公社・専売公社民営化、男女雇用機会均等法成立、日航機墜落、世界最大の惨事、中曽根首相ら初の靖国神社公式参拝。流行語「新フーエー法、エスニックする、F・Fする、角抜き、分衆、ペーパー商法、うま味調味料、車内暴力、同心円

昭和61年(1986)

《電が岡》

●ダストボックス廃止、袋づめ方式へ

●街路灯の市への移管陳情 (毎年のように行われる)

《逗子》

●小坪消防分署、小坪海岸に移転 ●小坪天王山リクルートコスモス 宅造着工

●市長リコールと市議会解散請求、解散選挙

《社会・世相》

燃系工連不正事件、東京サミット、同日選・衆参とも自民圧勝、日韓発言・藤尾文相罷免、三原山大噴火。流行語「究極、知価革命、死んだふり、プツン、激辛、お

じようさま、オジンシンドローム、マネーゲーム

昭和62年(1987)

《電が岡》

●久木新道への坂に面した6世帯加盟

●会館増改築完成

《逗子》

●米軍住宅アセスメント終了、知事調停案不服として市長辞職、選挙で再任

●米軍住宅地の文化財分布調査

《社会・世相》

NTT株初上場 JR誕生、売上税廃案 東芝機械コム違反事件、朝日新聞襲撃事件、利根川進教授ノーベル医学生理学賞、竹下内閣誕生。流行語「くれない族、新・新人類、モーニングシャンプリ、レトロ、懲りない面々、俵万智現象、個食化

昭和63年(1988)

《電が岡》

●会員名簿配布

●会館の階段など改修

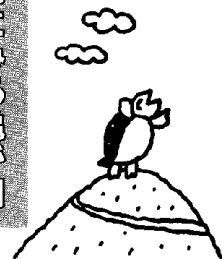
《逗子》

●沼間公民館開設

《社会・世相》

青函トンネル開業 高知高校生中国列車事故、瀬戸大橋開通、リクルート疑惑発覚、自衛隊潜水艦・つり船衝突、ソウル五輪、藤ノ木占墳石棺開く。流行語「ノルウェー現象、カウチポテト、六月病、ハッカー、コクーン人間、自粛、サイバーパンク

新聞にみる電が岡



「ゴミ収集を機械化 逗子・亀ヶ岡団地で試験的に」の二段の記事が、A新聞湘南版を飾ったのは昭和四十一年一月のこと。この記事でダストボックスの「すばらしさ」がPRされて、自治体関係者の亀が岡見学が相ついただという。昭和四十四年には亀が岡の「名物」であった「デコボコ道路」についての記事が、A新聞、N新聞に出た。四十九年夏には京急バスの小坪終出逗子鎌倉線が大幅な減便となり、自治会が小坪区会と協調して京急バス、市と交渉し、四便復活した件がK新聞横須賀・湘南版に出ている。「自分の町は自ら守る」の見出しで、自治会役員の

逗子行きバス停のうしろに、天王社（須賀神社）がある。天王社は、海の神、須佐男命をまつり、夏祭りは小坪あげての伝統ある祭り。小坪の浜よりの所は四町に分かれ、四町が一年ずつ順番で祭りの行事にあたる。

小坪の夏祭り

天王歌は木遣りに似ていて、和賀江港が栄えたころ、紀州から入った材木の運搬の際、歌われたきやりであるという説もあり、材木座のお祭りに歌う歌も同じものである。

天王歌は木遣りに似ていて、和賀江港が栄えたころ、紀州から入った材木の運搬の際、歌われたきやりであるという説もあり、材木座のお祭りに歌う歌も同じものである。

小坪といえど西小坪と東小坪の中央に、南に向かつてのびる大崎が、小坪を象徴する山でした。山上には、古代人の住居跡が発見されたり、小坪集落の歴史を語るにも充分な数多い遺跡や、物語を伝えていきます。小坪寺あたりからは、左手に真すぐに大崎山の山腹が見えます。六月の大崎山には、山が白く見えるほど、山ゆりの花が咲きました。

歴史メモ

大崎山

この山ゆりが消えてしまったのは戦中から戦後であったと思います。食料の無くなった時代に、山に求めた食料はいくつかありました。中でも山芋（じねんじょ）と山ゆり（球根）は、ごちそうであったのです。忽ち根は掘りつくされ食べられてしまいました。

鎌倉春秋に小坪の富士と題する大仏次郎の随筆がありました。

「小坪の裏山、逗子との境にある岬の背から西に向かつて江の島と富士を見る眺望を私は好きである……鎌倉は飯島に隠れて見えない。しかし見おろした海面が低く大きく、江の島を前に置いて、空にそびえる富士の姿が、また実に大きく見える。真下に、漁船を並べた小坪の磯や聚落……小じんまりと谷戸に別れた鎌倉の土地に、稀れに豪奢な眺望である」

吾妻鏡では鎌倉の南境であり、大仏次郎は、鎌倉の散歩道の一つにしていたようです。ちなみに大仏次郎の書いた、赤穂浪士の最後の文に「堀田隼人夫妻のねむっている墓は、小坪の海見える、椿咲く寺にある」として小説が終っています。

（石井清司著「ながれ藻」より）

平成元年（1989）

亀が岡

- 自主防災会が発足
- 逗子
- 沼間中学校開校
- なぎさホテル廃業
- 社会・世相

昭和天皇崩御、平成へ、竹下、宇野、海部、総理相次ぐ交代、消費税導入、幼女連続誘拐殺人事件、参院選与野党逆転、総評解散、連合結成、美空ひばり死去、東欧諸国民主化運動、ベルリンの壁崩壊、天安門事件、難民漂流、サンフランシスコ大地震、吉野ヶ里遺跡発掘、流行語「マドンナ旋風、ニューリッツ

伝統の駅伝に「亀が岡」も参加
逗子市内一周駅伝は毎年一月に開催されるが、亀が岡もチームを組み、岡安昭吾氏（11班）、三橋兄弟（2班）などが参加、好タイムを記録、最近まで逗子市体育会からも注目された実績をもつ。

会員名簿は三回発行

自治会の会員名簿は▽五十一（一九七六）年二月▽五十七（一九八二）年十月▽六十二（一九八八）年（配布は六十二年）の三回発行している。

※会員の転入転出をとらえながらまとめた、製作経費は協賛広告を極力充当し、経費削減をはかったことなど、各期の担当役員のご努力にあらためて感謝。

夜の防犯パトロールが記事になったのも同じ年のこと。

昭和五十六年六月には「満十歳になった逗子・小坪の「亀が岡文庫」蔵書一〇〇〇冊、会員七〇世帯に」の記事がK新聞横須賀・湘南版のトップを飾った。五十九年二月には同紙の「町内会レポート欄」に「逗子市亀が岡自治会」が発場、自治会の歴史や行事、隣接自治会との密接な協調ぶりがくわしく紹介されている。



町内会 会長 長光 内井 町石

逗子市 亀が岡自治会

